

小論文(知的財産学部)

■出題のねらい

知的財産とは、人間の創作活動や営業活動の成果物を意味し、これには、画期的な新技術、魅力的なデザイン、人気のコンテンツ、高いブランドイメージなどが含まれます。知的財産は、産業や文化を発展させる重要な要素であるため、法律によって他人の模倣や無断利用から保護されており、知的財産に関する権利を有する者のみが自由に活用することができます。

知的財産学部は、知的財産を創造し、法律的に保護し、経済活動において活用するという3つの局面のいずれにおいても大きな役割を果たすことができる人材を育成することを目的としています。

このため、知的財産学部の入学試験においては、このような知的財産に関する基礎的な知識、関心、学修意欲を持つ方を選別することとしています。

問1. は、知的財産が持つ上述のような経済的・文化的意義をどの程度理解しているかをみるのがねらいです。そして、その際、現行制度が不存在であった場合にはたしてどういう事態となるかという仮定との対比において、現行制度の意義を説明することができるかを試すこともねらいとしています。

問2. は、知的財産権に含まれる特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権など具体的な権利についての基礎的な知識をみるのがねらいです。また、近年、知的財産権に関する報道が数多くなされており、これには、先端技術を持つ企業間の特許権に関する争い、SNSを利用した著作権の侵害、新興国の企業による先進国企業の持つ発明や著作物の模倣、知的財産の有効利用による経済活性化を目指す政府の施策等が含まれます。これらの報道案件について、その概要や自身の意見を問うことにより、知的財産権に関する知識・関心の度合いをみることもねらいとしています。

採点に際しては、次の3つの項目により評価をしました。

- ① 問題の理解度（課題の内容を理解しているか、まったく無関係な内容が含まれていないか）
- ② 内容の妥当性・豊かさ（課題と論理的に整合しているか、矛盾はないか、正しいか、内容に豊かさ（オリジナリティ）はあるか）
- ③ 文章の伝達力（文章構成は適切か、文法の正否、文字（かな・漢字）の正否）

採点の比重は、①が20%、②が40%、③が40%です。

■採点講評

採点の結果、多くの受験者の答案は、良好なものでした。

あらかじめ、知的財産に関して、書籍、新聞・雑誌、インターネット等により基本的な知識を身につけている受験者が多いことがよく分かりました。

今回の問題のような小論文に解答する上で注意すべき点として気づいたことを述べれば、次のとおりです。

- (1) 問題で問われていることを正確に把握し、それ（複数ある場合には、そのすべて）に対する解答を過不足なく記述すること。
- (2) 自分が持っている知識を総動員して、できる限り正確な記述をすること。例えば、具体的な知的財産権の内容については、それらの法律的に厳密な定義は入学後に学べばよいことですが、自分が取り上げた権利（例えば、著作権）と他の権利（例えば、特許権）とが内容的に識別されていない答案には高い評価をすることができません。権利相互間のおよその区別ができる程度の説明能力は必要です。
- (3) 限られた時間に小論文を作成するのはなかなかの苦勞と思いますが、問題を見ていきなり書き始めるのではなく、用紙の余白に、書くべきことを箇条書きにして、全体の構成をまとめてから、執筆するようにしてください。